

議題（１）一色地区における公共交通のあり方に関する 検討結果について

○ 目的

いっちゃんバスの利用状況が著しく悪く、地域の移動の足として機能しておらず、費用対効果も悪いことから、行政コストの削減を図りつつ、持続可能な移動手段の確保を検討する。

○ 一色地区公共交通協議会について

構成メンバー：代表町内会長、民生委員、小中学校PTA、包括支援センター
令和５年８月、９月、令和６年１月の３度開催会議の開催状況

○ いっちゃんバスの現状

- ・ １日 7 便（7 時台～18 時台）運行
- ・ 車両は、11 人乗り（運転手含む）ワンボックスを使用
- ・ 年間 3,400 人程度が利用（R4 実績）
- ・ 1 便当たりの利用者数は 1.4 人

○ 利用者アンケート

- ・ 利用者の約 7 割が 70 代以上で、うち 5 割が週 1 回以上の利用
- ・ 平日の午前中に全体の 7 割の利用が集中
- ・ 利用者の居住地は西部小校区が 5 割、乗車バス停の最上位が開正住宅
- ・ 公共交通に使う際に最も重要なことは「目的地に行けること」

○ 委員からの意見

- ・ 駅に行けるようにしてほしい
⇒路線バス（名鉄バス・名鉄東部交通）が運行しているため実現困難
- ・ 学生にも使いやすいようにしてほしい（荒天時の中学生の通学）
⇒日常的なニーズが小さすぎる
- ・ 利用できる時間、便数が少ない
- ・ 利用者は少ないが、地域の生活を支える上では、有意義なもの

○ 代替手段案

相乗りタクシー※（バスとタクシーの機能を併せ持つサービス）

※相乗りタクシーは、目的地の近い旅客同士を運送開始前にマッチングし、タクシーを相乗りさせて運送するタクシー制度（令和３年 11 月 1 日から運用開始）

いこまいカーとの違い

手段	相乗りタクシー	いこまいカー
運行形態	予約制【1台で複数の依頼に対応】	予約制【1台で1件の依頼に対応】
予約方法	電話 or アプリ	電話
利用時間	8時～17時	8時～17時
運行経費 (見込)	約800万円 相乗り率1.2人で算定	約680万円
専用車両	不要	不要
ドライバー確保	不要	不要
持続性	○	△
運賃	200円/回	300円/回

○ 利用方法

- ①電話またはアプリからのタクシーの予約（配車依頼）を行う。
- ②電話またはアプリで、利用の可否が通知される。
例）○月○日△時に自宅から乗車、▲時に目的地に到着
- ③利用日に指定された時間・場所から乗車
- ④相乗りになった場合は、少し回り道をすることはあるものの、ドアツードアで目的地に到着
- ⑤運賃（200 円/回程度で想定）を支払い、下車

○ メリット・デメリット

【メリット】

- ・ドアツードア（自宅から目的地まで最短距離）での移動が可能
- ・相乗りにすることで、いこまいカーに比べ利用者負担を軽減できる
- ・目的地の追加が柔軟に対応できる
- ・タクシーの生産性向上とドライバー不足に対応した運行形態
- ・行政コスト（車両・人件費）の軽減

【デメリット】

- ・利用には予約が必要になる
- ・タクシーの配車状況次第で、すべての予約を受けられない可能性がある
- ・希望する時間に出発（または到着）できない可能性がある

○ 目的地案

別紙のとおり